

出席者 (学 校) 田川校長、間副校長、勝木教頭、伊藤教頭、保木本事務長
(評議員) 伊藤真司、玉井康之、永田敦子 <敬称略>

- 1 開会 校長挨拶
- 2 定時制給食試食及び指導見学
- 3 定時制球技大会参観
- 4 本年度経過説明
 - (1) 定時制の教育活動紹介
 - (2) 中間反省から(定時制、全日制)
 - (3) 質疑応答・感想

【今回は定時制を中心に】

- ・伊藤評議員：ア 今春の入学人数が少ないが、その理由は何か。

(回答)一概には言えないが、ここ数年の管内高校への一般出願動向や、他校の第2次募集人員の状況が影響していると考えられる。

イ 小中学生の6.5%が発達障がいとの可能性がある」と報道されていたが、本来、特別支援学校で手厚く指導されるべき生徒が、「保護者が世間体を意識する余り、高等学校に入学するケースがある」と聞いたことがあるが、どうか。

(回答)近年は保護者の意識も変わり、その後の手厚い施策に期待して、高等学校で十分に教育を受けられる生徒が、特別支援学校に殺到し、本来、特別支援学校で教育を受けるに相応しい生徒が入学しがたくなっている状況もある。

- ・玉井評議員：ア 退学者数について、年度により波があるが、その理由は何か。

(回答)その年度の在籍生徒の状況によるため、一概には言えない。

しかし、過去の卒業率が約60%に対して、今春の卒業率は約70%、現4年生の在籍率が約80%と在籍率が高まってきている状況を捉まえると、「近年のキャリア教育等の積み重ねによる『退学者数の減少』」は考えられる。

イ 特別支援教育支援員をカウンセラーとしても有効に活用するなど、一般の生徒の勇気付けにも効果を見せている。

カウンセリングによっては、生徒の単なるカタルシスで終わり、学校批判を助長し、ものごとが好転(解決)しない場合もあるが、教職経験者を支援員として充てているため、学校としての効果的な即応に期待できる。

- ・永田評議員： 定時制生徒は、明るく元気で、さっぱりしている印象を受けた。

進学先として、専門学校が多いようだが、経済的な理由で定時制に通う生徒にとっても、より大学進学への道が開けるような支援を期待する。

就職先として、昨年度は正社員が増加している。今年度もそれを維持できるかどうかだが、キャリア教育実践の成否(評価)につながる。

【全日制については】

- ・SSH やセンター・キャンパスの状況や今後の在り方について、議論を深めた。

- 6 第3回の予定 → 来年、2月下旬に開催予定

- 7 閉会 校長挨拶